

- 集落機能強化加算を活用して、除雪支援や、安否見回り活動など相互扶助の仕組みづくりを実施。
- 集落戦略に基づく農地維持の活動を実施。

集落協定の概要

R6協定面積: 4ha
(うち田4ha)
R5交付金額: 48万円
(うち加算措置12万円)
R5配分割合: 個人配分33.8%
共同取組活動66.2%
協定参加者: 農業者4人
非農業者2人
構成集落数: 1集落
開始年度: 平成22年度
多面的機能支払との重複: 有(無)

【目指している将来像】

- ・集落の自治機能の強化
- ・担い手確保、鳥獣被害対策による農地維持



【協定役員による話し合いの様子】

取組の背景・課題

- 集落住民の高齢化が進み、一人暮らし世帯も増加。
- 自力での除雪が不可能な世帯があり、地区内で仕組みを作る必要があった。
- 集落住民からは、除雪をはじめ、合意の取りやすい小さな集落という特徴を生かし、生活面での相互扶助の仕組みづくりや農地の維持に向けた取組への期待が高まっていた。

課題解決に向けた取組内容

- 集落協定役員を中心に集落内除雪支援隊を結成。規程を作成し、集落協定参加者4名で活動することにした。
- 従来は広報の投函のみだった安否見回りを発展させ、対面での声掛けを実施。
- 農地維持のため、協定外農業者による入り作の働きかけや農地所有者への協定参加の呼びかけを行った。



【除雪支援隊の活動の様子】

- 取組をきっかけに、希薄だった集落内コミュニティ機能の強化が図られた。また、声掛けの機会が増えたことで、買い物支援など新たに生活支援活動にも取り組むようになった。
- 協定外農業者に、集落協定への参加を働きかけ、次期対策から参加することとなった。
- 農地の維持のためには、鳥獣害の軽減も課題であり、外部との助け合いも検討しながら、電気柵設置等の対策を行う。

取組のプロセス(生活支援取組について)

① 有志による生活支援

STEP1

・実施前
集落住民の高齢化が進む中、従来は有志が個々の依頼に基づき、必要な生活支援を実施。

② 除雪機の購入と運用体制の検討

STEP2

・取組のきっかけ
集落住民の共通課題であった除雪に対応するため、除雪機を購入。
運営資金について市に相談したところ集落機能強化加算の活用を提案された。

③ 除雪支援隊の編成と安否見回りの実施

STEP3

・取組の発展
協定参加者4名で除雪機を利用した当番制の除雪隊を編成した。
また、集落機能強化加算を活用して、既存の高齢者見回りの仕組みを発展させ、対面で声掛けを行うことにした。

④ 地域コミュニティ機能の強化

STEP4

・取組による成果、地域の変化
除雪支援隊
当番制で継続した相互扶助の仕組みに発展。
集落外から除雪隊を手伝いに来る人材も生まれた。
安否見回り
声掛けをきっかけに、買い物支援など必要な生活支援も行えるようになった。
地震発生時の安否確認としても機能。

活動写真等



【除雪支援隊の活動の様子】



【安否見回りの実施】

人や組織等の関係図

